

福井支部ニュース

2023年度 第3号

日本科学者会議福井支部

連絡先: 山本雅彦、masahiko@mbp.nifty.com

郵便振込口座番号 00710-9-17967 日本科学者会議福井支部

支部ホームページ <https://jsafukui.net/>

科学者会議本部 <http://www.jsa.gr.jp/>

今号の内容

- ◆ 2023年度 JSA 福井支部 第5回幹事会の概要報告 (山本 雅彦)
- ★ 緊急声明 放射性廃棄物最終処分場「文献調査」に応募しないという対馬市長の決断を支持する (JSA 原子力問題研究委員会、長崎支部)
- ★ 第3回幹事会、第4回幹事会の概要 簡略報告
- ◆ 報告 「STOP!! 東海第二原発の再稼働 いばらき大集会」 (森 透)

[2023年度 JSA 福井支部 第5回幹事会の概要報告]

2023年10月2日(月)午後6時から第5回幹事会がオンラインで開催された。事前に案内のあった議題が表記の順番通りに議論された。①北陸シンポについて、②支部結成50周年「福井の科学者」特大号について、③「全国原発シンポ2024 福井」について、④支部例会について、⑤「福井の科学者」について、⑥支部ニュースについて、⑦支部財政と会員拡大について、⑧その他、である。

会議の冒頭、山本富士夫代表幹事から、JSA 原子力問題研究委員会(以下、原問研)が、長崎県対馬市長が核のゴミの最終処分に関わる文献調査を受け入れないと発表したことについて、これに賛同する「声明」を小野

一幹事(原問研委員)が起草し、JSA 長崎支部と連名で「声明」を出したことが紹介された。(編集子注:「声明」は支部ニュースの本号に掲載)

①について、9月19日、JSA 北陸地区3県の事務局長会議が開かれ、山本富士夫全国代表幹事から「企画書(案)」が提案され了承された。それによると、開催はオンライン方式(Zoom)全国市民公開型で、テーマは「核のゴミ処分と住民安全性の観点から「原発回帰」を問う」、日程は2024年4月の第1第2第3第4土曜日の午後で、時間は180分。基調講演は小林昭三氏(新潟大学名誉教授・JSA 会員)に「副読本の問題」(仮)の内容で講演があり、各県からの基調講演に沿った報告は、合計で3~4件である。

②について、「福井の科学者」50周年記念特大号(140号)実行委員会(当支部幹事で構成)の高木秀男座長から、執筆者に依頼している現状について報告があった。その状況については、以下、当会HP(JSA 会員限定公開)で確認できる。

(<https://jsafukui.net/>「福井の科学者」50周年特大号について/)

③について、8月30日の原問研で、「全国原発シンポ2024 福井」(略称)を福井で行うことで合意され、原問研と福井の地元で、実行委員会を設置して行う案が提起され決定された。その案が今日の幹事会で報告され、実行委員会の委員として以下のみなさんが承認された。また、内容や予算、役割分担については、今後、実行委員会(Zoom 開催)を開いて決めていくことを確認した。

- ・原問研委員: 小野一、本間照光、小林、岡本良治
- ・地元福井の委員: 山本富士夫、宮本重信、木戸聡、森透、小倉久和、高木秀男、小野一、山根清志、伊藤勇、山本雅彦(敬称略・順不同)

④について、本年中に小野一幹事の「放射性廃棄物問題の現状と展望について」と、岡本拓夫・福井高専教授の講演会「熊本地震と原発、断層の問題(仮題)」を開催し、以下の例会は、来年開催を検討することが提案され了承された。

- ・島崎邦彦元原子力規制委員会委員長代理の近著の「読書会」

- ・樋口英明元福井地方裁判所裁判長のドキュメンタリー映画を観る例会
- ・勝山の学校で進む統廃合問題をテーマに、関係者に報告してもらう例会
- ・「子どもシェルターふくい」について

⑤について、定期発行している「福井の科学者」の次号 140 号は、JSA 福井支部 50 周年特大号とし、発行は 12 月だが出版は 1 月にずれ込むことも了承された。

⑥について、発行担当者から、支部ニュースの原稿が集まらない現状が報告され、投稿の呼びかけがあった、また、最近発出された「緊急声明」はニュースに掲載することが確認された。

⑦について、会費未納額が 111,000 円あり会の財政が逼迫していること、会員数は、退会者 3 名（死亡者 1 名を含む）入会者 1 名であることが報告された。

⑧について、冒頭で紹介のあった小野一原問研委員（当会幹事）起草の「声明」発出（10 月 2 日）について、日本科学者会議原子力問題研究委員会と日本科学者会議長崎支部は連名、「緊急声明」を発出。題名は、「放射性廃棄物最終処分場『文献調査』に応募しないという対馬市長の決断を支持する」で、比田勝・対馬市長の素晴らしい決断を評価し、日本政府に、市長の決断を重く受け止めるよう求める内容となっていることが紹介された。（詳細は当支部 HP に掲載）

次回の第 6 回幹事会は 2023 年 11 月 6 日(月)午後 6 時と決定し、20 時 12 分に第 5 回幹事会は終了した。出席幹事は 9 名であった。

（山本 雅彦）

支部ニュースへの寄稿・投稿を

支部ニュースを支部会員間の交流の場とするため、積極的な寄稿・投稿をお願いします。

- ◆ジャーナル評論：「日本の科学者」「福井の科学者」の評論
- ◆時事評論、意見・見解
- ◆活動報告・経験報告・事例紹介
- ◆行事案内、会員への案内・お知らせ
- ◆その他、エッセー、書評、文芸作品の紹介など、支部ニュース担当者までメールでお送り下さい。（ogura@u-fukui.ac.jp）

〔緊急声明〕放射性廃棄物最終処分場「文献調査」に応募しないという対馬市長の決断を支持する

2023 年 9 月 27 日、長崎県対馬市の比田勝尚喜市長は、同市が放射性廃棄物最終処分場「文献調査」に応募しないという意向を、市議会に対して表明しました。私たち日本科学者会議は、比田勝市長の素晴らしい決断を評価するとともに、破綻した原子力エネルギー政策の「負の遺産」を押しつける国家プロジェクトに抗しての対馬市民の粘り強い努力に敬意を表します。

ことの発端は、本年 6 月、文献調査を求める人たちとそれに反対する人たちが、市議会にそれぞれ請願書を提出したことにあります。8 月 16 日に開かれた最終の請願審査特別委員会は、文献調査を求める人たちが出した請願書を 9 対 7 で可決しました。これを受けた 9 月 12 日の市議会本会議での採決結果は、10 対 8 でした。すなわち、市議会では賛否が拮抗したため、最終決断を委ねられた市長は市民の合意形成が不十分として応募しない考えを示したわけです。全般的に見れば、このような熟議過程は地方自治と民主主義のお手本といえます。それゆえ、日本政府は、対馬市長の決断を重く受け止めるべきです。

原発を推進する人たちおよび政府は、おそらく、反転攻勢を仕掛けてくるでしょう。一部では、対馬市の選択が地域工ゴとでもいわんばかりの言説が流布するかもしれません。ほんとうは、周辺地域を犠牲にした国策こそが非難されねばならないのに。私たちは、透明性ある手続きと公衆参加による健全な世論形成を支持するとともに、放射性廃棄物問題の民主的解決のための模索を引き続き行う決意を、ここに表明します。

2023 年 10 月 2 日

日本科学者会議原子力問題研究委員会

日本科学者会議長崎支部

《支部ニュース編集子から支部読者へ：第3回・第4回幹事会の簡略報告》

《報告》第3回支部幹事会は、《今年末に発行予定の『福井の科学者』特大号について》を唯一議題として討議・意見交換

第3回幹事会は8/7(月)に開催されましたが、特大号の企画と寄稿の確保が大きな課題として残っています。以下は、8月10日の支部会員メーリングリストで配信された、担当の高木秀男幹事による特大号への寄稿呼掛け、です。

支部結成50周年記念特大号 原稿募集

高木秀男

『福井支部ニュース』（2022年度 第12号）でお知らせいたしましたように、『福井の科学者』の次号を、「福井支部結成50周年記念特大号」として今年の12月に発行することが支部幹事会で決まりました。そのため原稿を広く募集しています。

会員それぞれが取り組んできた記憶に残っている活動を、記録に残す気持ちでご協力をお願いします。内容については、今のところ50年間の主な支部活動を総論的に紹介するもの、原発問題、教育問題、環境問題、出版活動、支部例会・公開講座、まちづくり・地域問題、憲法問題や2.11集会、学問の自由と科学者の権利など、特に力を注いできた問題別の原稿、会員・読者からの支部活動に対する自由な意見・提言、資料を考えています。

原稿のテーマは基本的に自由です。なるべく多くの方に多様な視点から問題提起をいただき、全体として50周年記念特大号にふさわしい内容にしたいと考えています。支部会員の皆様の大きな協力を得なければ企画は成功しません。どうか皆様のお力をお貸し下さい。

原稿の締め切りは11月10日とします。原稿の枚数は、基本的には書きやすい枚数で書いていただければと考えていますが、刷り上がりで2頁から10頁ぐらいを想定しています。原稿の細かな書式等については、最近の『福井の科学者』を参照して下さい。『福井の科学者』用のテンプレートを用意してありますので、見本のテンプレート・ファイルに直接原稿を打ち込めばwordファイルが完成されます。それをpdfファイルに変換して印刷所に送ります。編集時間を短縮するために、原稿送付の前に

執筆者各自が十分な校正をお願いします。（下線と太字は編集子）

ご質問・原稿の送付先は下記までお願いします。

高木秀男

メール fwnf2030@nifty.com

TEL 0776-22-2715

《報告》第4回支部幹事会

第4回幹事会は、9月4日にオンラインで開催されました。

1. 冒頭、山本富士夫全国代表幹事から北陸地区事務局長会議の様子が報告されました。石川支部が開催担当で来年4月に予定される北陸地区シンポジウムについて事務局長会議での議論が進んでいないので、山本代表幹事から、次回は石川支部に代わって福井支部で担当してはどうか、という提案がありました。第4回幹事会では、これについてさまざまな意見が出されましたが、1時間以上の侃々諤々の意見交換の後、支部としては次のような提案で北陸地区事務局長会議へ臨むこととなりました。

「原発GX推進法」が成立したなかで、「全国原発シンポ」と内容的に重ならないよう配慮した上で、福井支部が、原発問題で北陸地区シンポジウムを開催する。

これに基づいて、企画書案は、山本代表幹事が作成し、福井支部から北陸地区事務局長会議へ提案とする、こととしました。（この企画書は、この第3号支部ニュース冒頭の、山本雅彦事務局長の第5回支部幹事会の報告にあるように、事務局長会議で提案され了承されました。統一テーマは、『核のゴミ処分と住民安全性の観点から「原発帰帰」を問う』です。）

2. 今回も、『福井の科学者』特大号について、進捗状況と現状確認の報告があり、多くの意見や提案がなされました。

以上の議題でほとんどの時間を消費してしまったので、★「全国原発シンポ2024 in 福井」についてはポイントを確認し、次回に持ち越しました。また、★支部例会については、8月の木戸例会の報告、小野例会は10～11月実施を確認、その他のテーマについては次回以降に意見交換、ということになりました。その他、支部ニュース、支部財政報告、1名の支部会員拡大、その他について、それぞれ簡単な報告・意見交換がされました。

〔随想〕 <STOP!! 東海第二原発の再稼働 いばらき大集会に参加して>

昨日の8月26日(土)茨城県水戸市の教育会館で開催された表題の再稼働反対集会に妻と2人で参加してきました。福井では原発反対のいろいろな集会に参加してきましたが、茨城県では初めて参加しました。水戸市はつくば市から50キロくらい離れていますので、車で高速道路を使っていきました。会場には、多くの方々が県内外から600名位、のぼり旗やメッセージ旗をもって参加していました。東海第二原発は1978年11月28日の営業運転開始から45年目になる老朽化した原発であり、首都圏

に一番近い原発です。集会のチラシには、「東海第二原発は周辺人口約92万人、首都圏に一番近い原発です。事故が起きても被災し、避難先に長くとどまることもできません。首都は壊滅です。このような原発の再稼働は絶対にみとめることはできません」と書かれています。会場では、政府が福島原発汚染水の海洋放出を強行したことに大きな反対の声があふれていました。

集会は13時30分から始まり、主催者の挨拶のあと、賛同人の7名の挨拶がありました。7名の中には、筑波大学人文社会系准

教授の先生もおられました。チラシには、茨城大学人文社会科学部教授の方のお名前も掲載されていました。大学人も参加していることは心強く思います。メッセージでは、私の住んでいるつくば市長(五十嵐立青氏)からの連帯挨拶が紹介されました。つくば市長は幅広い政党からの支持があるのですが、この集会にメッセージを寄せたことは大きな政治的判断かなと思いました。頑張っしてほしいと思います。

次に、熱い連帯の挨拶が有名な弁護士の河合弘之さん(脱原発弁護士全国連絡会/東海第二原発運転差止訴訟弁護団共同代表)からあり、続いて、NPO法人原子力資料情報室の松久保肇さんから「原発推進と老朽原発再稼働は危険」と題する講演がありました。詳細な配布資料をもとに説明がありました。最後に実行委員会事務局から決議文の提案があり、満場一致の大きな拍手で採択されました。決議文には、「福島原発事故は未だに収束せず、事故から12年経っても約3万人が避難生活を続けています。／私たちは、過酷事故と隣り合わせで、孫・子に負担を強いる原発はやめて、自然と共生する再生可能エネルギーこそ未来への希望であると確信します。」とあります。集会終了後は、1時間ほど市内をデモ行進しました。私たちは遠方から参加したこともあり、デモ行進は遠慮しましたが、帰りの車の中からデモ行進の皆様を応援しました。

今回、茨城県で初めて原発反対の集会に参加できたことを嬉しく思います。集会は地元だけではなく、関東あたりの方々や全国からも参加者があったのかもしれませんが、福井だけではなく、茨城県でも原発反対の意思表示をする集会に参加できたことで、今後の反対の展望をもつことが出来ました。以上、ご報告します。

(森透 2023/8/27 記す)

<<編集後記>>

暑かった9月が嘘のように涼しくなり、まだ10月半ばなのに11月の気温の地域もあり、北海道をはじめ北日本では紅葉と初冠雪が重なったところもあるようです。遅くなりましたが、2023年度福井支部ニュース第3号をお届けします。

ニュース原稿が不足気味です。各位の積極的な寄稿をお願いします。



STOP!! 東海第二原発の再稼働 いばらき大集会

2023年8月26日(土) 13:30 開場12:30
駿優教育会館 8階音楽ホール
〒310-0011 茨城県水戸市三の丸1-1-42 TEL 029-227-5552

参加費無料
*どなたでもご参加いただけます
*風邪症状がある場合は、参加をお控えください。

老朽原発 再稼働あぶない!!

13:30~15:30
*主催者あいさつ/賛同人の話し
*連帯のごあいさつ
*脱原発弁護団 河合 弘之 弁護士
*講演「原発推進と老朽原発再稼働は危険」
講師 松久保 肇 (原子力資料情報室)

15:50~16:30
*アピール行動(デモ)【雨天決行】
宮下銀座入口スタート
→ 南可自由広場にて解散

【主催】STOP!! 東海第二原発の再稼働いばらき大集会 実行委員会
〈問合せ〉 原発しらない茨城アクション実行委員会事務局
TEL 029-221-6811(相楽) 029-282-3619(相沢) 029-231-4555(花山) 029-251-2806(藤原)